

中学部 第1学年 社会科（地理分野）学習指導案

福岡市立小呂中学校
指導者 溝田友気

1. 単元名 「北アメリカ州」

2.

2. 単元目標

- 北アメリカ州の地形・気候・資源などの自然環境、産業、文化体系、歴史的背景について理解し、アメリカ合衆国について、地図や統計資料などの諸資料を基に調べまとめる技能を身につける。
【知識及び技能】
- アメリカ合衆国の経済発展とその特徴から環境問題や経済格差の課題、国際的な影響力などが地球的な課題とどのように関わっているか、思考・判断したことを説明する力を養う。
【思考力・判断力・表現力等】
- アメリカ合衆国の多文化社会や経済モデルから、日本や地球の課題を自分事として捉え、持続可能な社会づくりに主体的に関わろうとする態度を身につける。
【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 題材・教材観

本単元では、北アメリカ州、とりわけアメリカ合衆国を対象に、自然環境・経済・社会構造といった多面的な学習を通じて、同国が世界有数の大国となった背景を理解させることを目的とする。気候や農業の関係や大量生産方式と工業化の進展など、産業発展の要因を地理的な条件や歴史的背景と結び付けて学ばせることで、経済発展の仕組みを比較検討・分析する力の育成を図ることができる。さらに、日本がアメリカ型社会に近づくことで生じるメリット・デメリットを考察させることで、持続可能な社会づくりのために必要な方策や視点を主体的に検討させる。この過程を通じて、他国の事例を単なる知識として学習するのではなく、自国や自身の生活に引き寄せて課題として捉える力の育成を図ることができる教材である。

この学習を通して、地球的な課題である経済格差や環境問題について、自国とは異なる国とを比較し、異なる立場から考え、将来の社会参画につなぐ素地を養うことができ、公民的な資質を育てていくうえで意義深い題材・教材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒たちは、これまでの学習内で世界の主な地形や州区分、気候帯について学習をしてきた。これまで学んできた社会的事象や用語について、記述的知識としての定着は一定以上みられるものの、自身の生活や体験との結びつきという点で、課題が多い。また、本校は僻地離島校であり生活体験の差が大きく、特に経済をとらえる視点で乖離がみられる。加えて、学習について教員の説明をしっかりと聞き、授業内での発言はあるが、学校内外での言動につながる必要感を形成するまでに至っていない。

(3) 指導観

本単元の指導にあたって、将来社会参画する上で必要といえる経済発展と環境問題に関する視点について、身近な大国であるアメリカ合衆国を題材に考え、生徒自身が持続可能性を踏まえた考えをもてるようにすることをねらいとする。まず、本単元で用いる記述的知識について教科書や生徒の生活体験などから解説を行う。その際、身近なアメリカ合衆国の製品や普段気にしていない食品など資料を用いることで、次時の学習への動機づけと関連付けを図る。次に、大規模農業に関する映像資料やシリコンバレーにおける先端技術産業の映像資料の提示を行うことで前時までの学習内容の定着、強化を図る。また、現状に行き着くまでの経緯の理解を促すために、各種資料の変化や推移に着目させる。次に、アメリカ合衆国が世界有数の大国になった要因について考えさせる。その際、現状に行きつくまでの歴史的な背景や自然環境の条件に着目して考えさせるよう発問を行う。次に、アメリカ型社会について、これまでの学習内容から確認し、日本や世界中がアメリカ型社会になった際にどのような影響があるか、メ

リットとデメリットを考えさせる。その際、経済の視点や多文化の視点と学習内容を反映させるように発問を行う。最後に、単元の学習として、メリットとデメリットについて、メリットを享受しデメリットを減らす方策について考え、吟味を行う。また、生徒自身の考えをより深めるため、自分自身が何をできるか、何が必要かについて考えさせる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

有限性・・・大量生産を行う経済活動での資源消費や環境破壊の課題点を考える。

責任性・・・現状の経済発展の課題とその改善点について自分事として考える

・ESD を通して身につけたい資質・能力

クリティカルシンキング

現行の経済活動の在り方に対し、課題を見出して新たな視点から代替案や解決策を見出す。

システムズシンキング

大量生産による経済活動に関するメリット・デメリットを考え、経済活動の影響を考える。

・ESD を通して育てたい価値観

「世代間の公正」を重要視できる。

大量生産・消費型の経済発展に伴う環境問題や資源の枯渇について、考える。

自然環境、生態系の保全を重視する

アメリカ型社会について、大量生産によるメリットとデメリットを考え、持続可能性について考える。

・達成が期待される SDG s

12 つくる責任つかう責任

4.単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
世界共通の課題（例：環境問題や経済格差等）が、アメリカでどのような形であらわれているか説明している。	「アメリカ型社会は持続可能か？」という問いに環境への影響、経済的な格差など、良い点や不安点の両方に着目して多角的に考え、改善策について、考えを示している。	学習計画を主体的に計画し、粘り強く目標達成のために学習を行うことができ、その過程を振り返っている。

5. 単元計画 (全 6 時間)

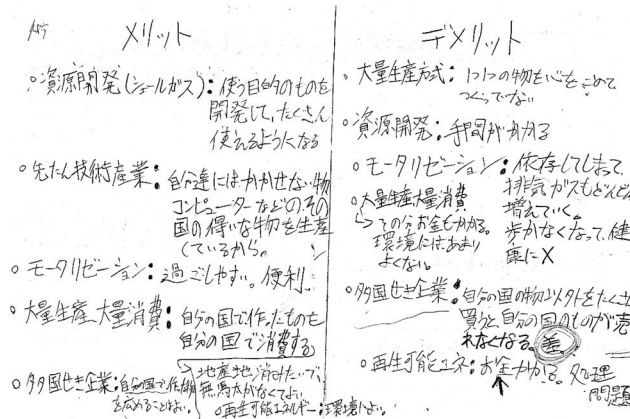
時	○学習目標 ・主な学習活動	教師の支援 ○視点 ※能力・態度	評価
1	○北アメリカ州の概要を確認しよう ・北アメリカ州の国名や自然環境、民族構成について理解する。	・地図や統計資料の読み取り方法について、説明を行う。	・本単元の学習で必要だと考えられる情報を主体的に選択できている (ウ)
2	○北アメリカ州の多様な文化はどのように生まれたか説明しよう ・北アメリカ州の多様な文化について、民族構成や歴史の側面から説明を行う	・日本と比較し、北アメリカ州にはあらゆる民族が暮らしていることをグラフから読み取らせる。 ○責任性 ※システムズ・シンキング	・多様な民族構成の中、生じてきた人種差別などに関する問題を歴史的な側面などから説明する (ア)
3	○アメリカ型農業の特徴を、気候や栽培・収穫方法に注目して説明しよう ・広大な国土面積や多種多様な気候帯から、適地適作やアグリビジネスなど大量生産のしくみが作られてきたことを説明する。	・写真や動画資料から、日本の農業とは異なるアメリカの大規模農業の様子を捉えさせる。 ※システムズ・シンキング	・アメリカ農業の特徴でもある“適地適作”“企業型農業”“大型機械による効率化”の点から理解している (イ)
4	○アメリカの工業を歴史と現在の変化に着目して説明する ・自動車産業の発展から現在の先端技術産業への変化を捉え、人材育成や技術開発がその土台になっていることを理解する。	・資料の読み取りを行い、資源と産業の分布に関連があることへの気づきを促す。 ○有限性 ※クリティカル・シンキング	・アメリカの工業発展には歴史的背景、資源・人的資源の豊富さ、大量生産方式による生産などが素地としてあることを考察している。(イ)
5	○アメリカの経済発展をメリット・デメリットから考えよう ・アメリカに経済発展の理由を今までの学習から整理し、生じる良い点・悪い点の視点から整理を行う。	・生徒の思考を整理できるように既習事項のポイントを整理しておく。 ・良い点、悪い点に関して視点によって、捉え方が異なることに着目させる。 ○有限性 ※クリティカル・シンキング	・農工業などの産業、民族や国の成り立ちなどの既習事項の意味を正しく理解し、使用することができている (ア)
6 本 時	○「なぜ、アメリカで世界有数の企業が誕生するのだろうか」について説明する ・「なぜ、アメリカで世界有数の企業が誕生するのだろうか」について、民族構成や国土面積や自然環境、農業・工業の特徴から説明する。 ・日本において、アメリカ型経済成長を行った時の影響から、アメリカ型経済成長の持続可能性と改善案について考える。	・前時で作ったメリット・デメリットを基にアメリカで世界有数の企業が生まれる理由を考察させる。 ・持続可能性の視点で現状のアメリカ型社会を再考察を行わせる。 ○責任性 ○有限性 ※クリティカル・シンキング	・前時までの授業内容を踏まえて、「アメリカ型社会は持続可能か？」という問いについて考察できている (イ)

6 成果と課題

成果

○持続可能性を念頭に置いた授業の有用性

今回の実践は、持続可能性を柱に北アメリカ州の学習を行った。従来の学習では、北アメリカ州の学習を通して産業発展の特色とその影響を考えさせることで、適地適作の概念や機械化された大規模農業、工業の移り変わりと先端技術産業の発展の過程が地域や物流とのつながりと大きくかかわっていることを捉えさせるものであった。一方で、こういった産業発展やそれに付随する人々の生活内で発生する課題について深く生徒が考え、身近な出来事として捉える機会を作ることができていなかった。持続可能性を柱として授業を行うことで、既存の産業発展について生徒が改めて考えるきっかけとなり、自らの生活様式にまで踏み込んだ発言や記述が授業内にみられるようになった。その点から目標としていたESDで働かせたい視点である“有限性”と“責任性”の視点を生徒が用いていたと考える。また、身につけさせたい資質・能力である“クリティカル・シンキング”、“システムズ・シンキング”についても、授業内の発言に「アメリカのような発展をそのまましていくのがいいのかな」、「技術開発で今の方法から新しい方法を考えたらいいよね」、「今の発展方法ではない方法をしていかないといけない」といったものがあり、現状の大量生産・大量消費での経済発展について、新しい技術からの改善や新たな枠組みを考える発言があり、資質・能力の涵養に寄与したのではないかと考えた。



・生徒記述（北アメリカの学習をメリット・デメリットでまとめた記述） ・授業風景（ペアワーク）

課題

○学習目標の焦点化

ESDで育成したい資質・能力や働かせたい視点について、社会科の特性上、単元内で網羅的に触れることが可能である。そのため、単元計画の段階で触れる範囲の想定や発問計画、生徒の活動や思考の流れを考慮しなければ大きく授業の趣旨が異なる場合がある。本実践の前段階にて、北アメリカ州の民族構成の授業において、移民と持続可能性での展開から現代の移民制度についての学習や、現代を生きる私たちの課題や問題についての学習を想定していたが、宗教や人種差別問題からESDの視点での“多様性”や“連携性”が中心となり、単なる現状の把握に終始してしまい、単元での学習目標にズレが生じた。

そのため、単元で主に達成を目指すESDを通した目標を明確化し、発問や学習の流れを整理し、授業内の学習目標の焦点化を図る必要性を感じた。

○単元における目標（主題）とESDでの目標の整合性

北アメリカ州の中単元では産業発達を自然環境、文化、地域のつながり、歴史的側面から単元計画を行った。資料の読み取りの中で数値データの推移なども扱ったため、本単元でESDの観点から“長期的思考力”に重きを置いた方が単元内容に即していたのではないかと考えた。実施前と実施後で多くの反省点が出るが、ESDの観点と主題の整合性を確認し、単元設計することでより効果的にESDで育成したい資質・能力の涵養を図れるように思う。

現在の学年修了時に目指す姿

中学校社会科の学習を通して、社会の事象について時間・空間・制度等の社会の見方・考え方から捉え、自分の身の回りの事象と比較・関連付けを行い、自らの考えを作ったり、実際の行動について考えたりすることができる中学校1年生を目指す。



漁業以外の産業を興したり観光客の増加を図ったりしないと働く場所がないな

総合的な学習の時間「小呂島の未来へ向けて」
小呂島の今後を考え、中学生ができることについて考えさせ、実際に企画、実施をする。その際、“持続可能”であるかの視点から生徒自身が計画を見直し、取り組み内容について協議、再考を繰り返すように促す。
島における島内での課題、島おこしする上での課題を調査・収集をし、整理分析をしていく中で、中学校での取り組みを設定し、実行し、振り返りを行う流れを1年サイクルで繰り返す。

このままだと島の人口は減っていくままだな
どうにかできないかな

島の漁師の人たちは、“魚が減った”ってよく言っているな...
海の環境保全是島の暮らしにもかわるかも!

小学校5年社会科「水産業の盛んな地域」
身の回りの海産物がどうやって食卓などの身近に来ているか考えさせる。
安定した漁獲量を維持するためにはどうすればよいか考えさせる

社会科「アジア州」
人口増加による経済成長面の良い点と公害やスラム形成等の都市問題などの悪い点について考えさせる。
その際、現状の課題について、持続可能性の視点から改善点や良い点を吟味する。

社会科 地理的分野
「北アメリカ州 ～アメリカ型社会の持続可能性について考えよう～」
○主に養いたいESDの資質・能力
クリティカル・シンキング
アメリカ型社会によって、もたされている便利な側面とともに課題である側面を見つけ出す。また、現状の課題について、便利な側面を残しつつ享受する方法を吟味する。
システムズシンキング
アメリカ型社会の課題点をメリット・デメリットの視点から捉える。また、アメリカ型社会の成長とともに人々の生活が便利になった点も捉える。
○主に育てたいESDの価値観
・「世代間の公正」を重要視できる。
・自然環境、生態系の保全を重視する。

国々のつながりは大切だけど、国々での差が問題を生み出すことがあるんだ

社会科「ヨーロッパ州」
地域統合体として、代表的なEUによる結びつきが現代のヨーロッパ州の経済や産業に影響を与えていることを考えさせる。
その際、持続可能性の視点から東西の経済格差や移民問題について吟味する。

社会科「アフリカ州」
歴史的な面が現在の経済発展や経済状況、産業構造に影響を与えていることを考えさせる。その際、現状を改善するためにアフリカ州以外の人々も関係している点について吟味を行う。

人々の生活を便利にすること一方で、資源などの問題が生じるな

アフリカの経済の話だけど、アフリカ以外の国々にもかわる話だね